

2024 年度 事業報告書

はじめに

1) 2024 年度 受賞報告	1
2) 外国語電話相談	2
3) HIV 陽性者の個別支援	5
4) グループプログラム	9
5) 多言語支援	12
6) 関西学院大学留学生支援事業	18
7) ネットワーク	18
8) 広報	19
9) 実習・研修受け入れ	20
10) 理事会	20
11) 会員総会	21
12) 事務局	22
13) 会員	23
14) 寄付者名一覧	23

特定非営利活動法人 **CHARM**
(Center for Health And Rights of Migrants)



はじめに

2002 年、HIV に感染した外国籍の人たち、特に在留資格を持たないために日本の医療機関を受診することが困難なまま AIDS を発症した人たちを支援することを中心的課題として CHARM は発足した。

発足からこれまで 23 年間、次のようなプログラムを実施してきた。

- ・ HIV 感染リスクの高い立場にある人が検査を受けやすい HIV 検査相談事業
- ・ HIV に関する外国語電話相談、HIV・結核に関連した医療通訳派遣と医療通訳研修
- ・ 女性 HIV 陽性者の交流会とキャンプ
- ・ HIV 陽性がわかって間もない人のためのグループミーティング
- ・ 薬物依存症からの回復プログラム
- ・ 高齢 HIV 陽性者の家庭訪問・同行支援・高齢者対面プログラム……等々

これらの活動に一貫しているのは、支援の対象が、外国人・HIV 陽性者・セクシャルマイノリティ・女性・高齢者・薬物依存者など、排除と差別の対象になりがちな人々だったことだ。2024 年度、CHARM はいくつもの賞を受賞している。わたしたちのこれまでの活動が高く評価されていることに自信を持ち、社会の中にある排除と差別に対する取り組みに踏み出していきたいと思う。

理事長 松浦基夫

● 2024 年度 CHARM 事業報告書

1) 2024 年度 受賞報告

2024 年度、CHARM は 3 つの賞を受賞した。

1-1) チャンピオン・オブ・チェンジ 2024 年日本大賞(CCJA)



事務局長の青木がフィッシュファミリー財団のチャンピオン・オブ・チェンジ 2024 年日本大賞(CCJA)を受賞した。

CCJA は、女性のちからで誰もが安心して平等に暮らせるインクルーシブな社会をめざし、勇気を持って行動を起こす草の根の女性リーダーに贈られる賞である。2024 年は 212 通の推薦応募の中から社会活動解決のために活躍する女性リーダー 5 名が入賞し、10 月 17 日に大賞の発表と受賞式が東京で行われた。

フィッシュファミリー財団は、アメリカ マサチューセッツ州ボストンに拠点を置き、ボストン地域の移民、低所得者層の若者支援、日本の女性リーダー養成を主な活動とした財団である。創設者は、厚子フィッシュと夫のラリーフィッシュ。厚子さんが 2013 年にオバマ大統領から Champion of Change 賞を受賞したことがきっかけとなり、日本の女性リーダーを励ます CCJA を 2017 年に創設した。

今回この賞に事務局長を推薦した CHARM の創設者の一人である榎本てる子さんの古い仲間は、CHARM の働きに光が当たるチャンスを作った。この賞は CHARM につらなる全ての人に与えられた賞である。

1-2) 大阪弁護士会第 24 回人権賞



大阪弁護士会が人権擁護活動を行う団体に贈る人権賞に CHARM が選出された。大阪市生野区で活動するコリア NGO センターとの W 受賞だった。2025 年 3 月 1 日に大阪弁護士会館にて授賞式が行われ、理事・スタッフともに出席した。

審査に当たった外部有識者の方たちからは CHARM が「誰一人取り残すことのない社会を目指して地道な活動を行ってきたこと」「近年では IT 通訳が普及してきているが 23 年前から対面での医療通訳を行ってきたこと」「他機関とのネットワーク構築を進めていること」「HIV やセクシャルヘルスというスティグマを伴う課題に長年地道に取り組んでいること」などを評価した。

人権の専門家である弁護士団体が CHARM の活動を高く評価したことは大変名誉なことだ。次の 20 年も「人」を真ん中にを一番大切にしながら、誰もが暮らしやすい社会を目指して活動を続けて行きたい。

1-3) 第 38 回日本エイズ学会ポスター発表報告・優秀賞



2024 年 11 月 28 日から 11 月 30 日に東京で開催された第 38 回日本エイズ学会にて「来日する HIV 陽性者が治療を継続できるために必要なこと」というテーマでポスター発表を行い、スタッフの竹野が優秀賞を受賞した。仕事や勉強のため日本に移住する HIV 陽性者の中には制度の壁により治療の継続が危ぶまれる人がおり、CHARM はこのような人たちがこぼれ落ちてしまわないようにサポートをしている。このテーマは 2024 年 2 月に実施した 20 周年記念国内フォーラムでも取り上げ、また同年 6 月の CHARM 総会や今回のエイズ学会での発表に至った。移住する HIV 陽性者の抱える課題について理解を示し、また CHARM の実践について評価された。これからは最前線の現場で活動する者として、責任を持って社会に情報を発信していきたいと考えている。

2) 外国語電話相談

活動開始年：2002 年

目的：日本語以外の言葉を話す人たちが理解できる言語で HIV、他の性感染症についての相談、検査や診療に関する情報を得る機会を提供するために 5 言語で電話による相談を行っている。

頻度：毎週火曜日 スペイン語、ポルトガル語、英語、16:00-20:00

水曜日 中国語 16:00-20:00

木曜日 英語 16:00-20:00

委託元：大阪府、大阪市

2024 年度は 131 件の電話相談を受けた(2023 年度は 137 件)。

言語別相談数は英語が 58 件、ポルトガル語が 32 件、日本語(外国人)13 件、中国語 13 件、本人に代わ

って連絡のあった支援団体や代理の方が 8 件、スペイン語 4 件、医療機関 2 件、日本語(ネイティブ)1 件であった。

言語の特徴として、昨年度と同じような言語構成であった。なお、変動が多い言語として英語が多くなり(+7 件)、ネイティブではない日本語を話す外国人からの相談が大幅に減少した(-9 件)。

2024 年度 対応言語及び件数

言語 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
英語	1	6	11	5	6	3	4	3	5	7	4	3	58
ポルトガル語	2	5	2	2	4	3	3	1	2	3	2	3	32
日本語(非ネイティブ)	1	1	2	3	0	1	3	0	0	0	1	1	13
中国語	1	0	0	0	0	2	4	1	1	2	1	1	13
支援団体/代理	0	0	3	1	1	0	2	1	0	0	0	0	8
スペイン語	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	4
医療機関	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
日本語(ネイティブ)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	5	12	20	12	12	11	17	6	8	12	8	8	131

相談内容について、件数が多い順として「外国語の通じる抗体検査会場紹介」が **57** 件(2023 年度 43 件)、「HIV に関する情報」**25** 件(同 34 件)、「行政手続きの方法」**19** 件(同 18 件)、「陽性者の社会福祉制度、医療費、薬価」**19** 件(同 22 件)、「HIV を含む性感染症への不安」**15** 件(同 12 件)、「医療機関紹介」**14** 件(同 18 件)、「外国語の通じる医療機関の紹介」**13** 件(同 21 件)だった。

特徴として、HIV 抗体検査会場の紹介が昨年度より増加した一方、HIV に関する情報が減少した。それ以外は昨年度と横ばいである。これまで同様に CHARM が対応する範囲は広いということが示されている。相談内容によって、医療機関などへの対応が必要になるため、電話相談の相談員から外国人陽性者支援担当者がスムーズに連携できるように、ミーティングを通して、インテークの内容の確認を行った。

2024 年度 相談内容(複数回答あり)

内容 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
1.外国語の通じる抗体検査会場紹介	1	4	9	6	4	4	6	3	5	6	4	5	57
2.外国語の通じる医療機関の紹介	0	3	3	1	3	1	0	0	1	0	0	1	13
3.行政手続きの方法	1	0	4	1	4	1	5	0	0	2	0	1	19
4.性感染症、婦人科系の問題	1	1	0	0	1	0	0	1	1	0	1	1	7
5.HIV に関する情報	2	2	2	4	2	2	4	0	1	3	3	0	25
6.PWHA 症状、薬の副作用	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
7.PWHA 社会福祉制度、医療費、薬価	2	3	4	0	3	2	2	0	1	2	0	0	19
8.PWHA 不安、心理的問題	0	0	3	1	0	0	0	1	0	0	0	0	5
9.海外の HIV 診療事情、受入れ機関紹介	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
10.PWHA その他	1	1	1	0	1	2	1	0	1	0	0	2	10

11.医療機関紹介	0	3	2	0	1	3	1	1	1	2	0	0	14
12.NGO/NPO 紹介	1	0	2	1	3	1	0	0	1	0	0	0	9
13.HIV を含む性感染症への不安	1	0	1	1	1	2	4	2	1	0	0	2	15
14.PWHA の家族、パートナー等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15.その他	0	0	1	1	1	0	1	0	0	1	2	0	7
合計	11	17	32	16	25	18	25	8	13	16	10	12	203

・LINE による相談(英語)の試験的な実施

外国語電話相談の他に、LINE による相談(英語)を試験的に開始してから約 1 年半が経過した。これは日本で生活している外国人で電話番号を持たない人が増えていること、また海外から来日前に日本での治療継続について不安を感じる人がどれほどいるのか、相談の需要があるのかを確認するために相談を行った。

2024 年度は 56 件の相談があった。

相談内容について、「HIV 陽性者の治療、制度」が 28 件で一番多く、その次は「性感染症不安、STI 検査」が 21 件だった。日本国内からの相談が 26 件、海外から 22 件だった。相談対応は「情報提供」が 43 件で約 8 割だった。

返事作成回数は 1-3 回までで相談対応が終了した半数近くの 25 件だったが、9-13 回かかったものが 15 件だった。

LINE による相談(英語)件数は英語でかかってきた電話相談とほぼ同じ件数である。日本で生活している外国人からも海外にいる外国人からも日本における HIV 治療について、または性感染症に対する不安について、相談のニーズがあることが明らかである。この LINE による相談を本事業として行うため、2026 年度からの開始に向けて、外国語電話相談に LINE 相談を追加することの提案を委託元である大阪府、大阪市にしてい予定である。

2023 年 9 月～2025 年 3 月 LINE 相談(英語)相談実績

		2023/9～ 2024/3 (7ヶ月)	2024/4～9 (半期)	2024/10～ 2025/3月 (半期)	2024 年度 (年間)
相談件数		13	32	24	56
相談件数(月平均)		1.9	5.3	4.0	4.7
内 容	(1)性感染症不安、STI 検査	5	16	5	21
	(2)PWLHA 治療、制度	7	15	13	28
	(3)その他	1	1	2	3
	(4)不明	-	-	4	4
場 所	日本	8	17	9	26
	海外	5	12	10	22
	不明	-	3	5	8
対 応	1.情報提供	9	26	17	43
	2.検査予約サポート	-	4	3	7
	3.担当者に繋いだ	4	2	4	6
回 数	・1-3	3	6	19	25
	・4-8	4	6	1	7

	・9-13	5	13	2	15
	・14 以上	1	7	2	9
期 間	1 回の相談で完結	10	21	16	37
	2 回以上の相談が必要	3	11	8	19

3) HIV 陽性者の個別支援

すべての人が健康に暮らすことができる社会を目指す CHARM が行っている HIV 陽性者支援は、多岐に渡っている。それは当然のことだが、人間はみな違うので人が必要とするものが違うからだ。CHARM は 1 人の人が必要としていることから始め、その時々で必要とされているものを作り出し、役割が終わったプログラムは完結してきた。

2024 年度の特徴としては、ここ数年の傾向だが、海外から移住する HIV 陽性者が日本で HIV 診療を継続するために支援を求めている方が多い。国境をこえて来日される方にとって異国で医療が受けられる場所を探すことは至難の業である。そのために有効なのが 10 言語のホームページだ。情報を入手することで次に進めていくことができる。日本で HIV 感染がわかった方には検査で陽性告知を行う際に通訳の派遣を希望者には行っている。また関西圏の病院であれば初診時にエイズ拠点病院に同行通訳を派遣する。診療場面での医療通訳の依頼は、関西圏を中心に全国の拠点病院から入る。遠い場所でも通訳者がいない場合はできるだけ遠隔手段で医療通訳を提供できるような体制を組んでいる。

HIV について相談をしたい人については、外国語の電話相談に加えてメールによる相談(日本語)と LINE 相談(英語)を行っている。カウンセラー派遣事業では、HIV 検査会場における陽性告知時とエイズ拠点病院にカウンセラーを派遣している。カウンセリングも重要な相談の機会となっている。また高齢の HIV 陽性者には地域での支援の一部を担い介護保険がカバーしきれない病院通院や安否確認などを行っている。

3-1) 移住 HIV 陽性者支援

移住 HIV 陽性者またはその関係者からの 2024 年度の新規相談は 92 件に対応した(依頼元は HIV 陽性者 85 人、医療機関 4 機関、支援機関 3 機関)。昨年度の相談件数は 101 件だったが、2023 年 9 月から開始した LINE による相談(英語)へ相談者が分散されたためだと考える(LINE による相談については「2. 外国語電話相談」を参照)。2024 年度からは多言語電話相談事業との連携を開始し、より専門的かつ継続的な支援が必要な場合は事務局で引き継いで対応を行った。外国語電話相談から引き続き支援を行ったのは 14 件であった。

新規相談 92 件の内訳は日本での HIV 治療の継続に関する相談及び情報収集が 82 件、治療以外の日本での生活に関する相談が 6 件、日本以外の国における HIV 診療事情に関するものが 4 件であった。日本での HIV 治療に関する相談 82 件の内、日本の拠点病院につながるための支援を行ったのは 28 名(内支援中 6 名)であった。昨年度同様の支援を必要としたのは 15 名であったため、ニーズは増加傾向であると言える。28 名の内身体障害者手帳の取得や自立支援医療の申請につながった人は 14 名であった。しかし、内 2 名は身体障害認定のために必要な過去の低い免疫を示す検査結果が無かったため一定期間薬の内服を中断し、身体障害認定を受けた。その他 8 名の治療継続方法は、高額療養費制度を利用して日本の病院で医療を受ける、オンライン薬局で薬を購入する等であった。2024 年日本エイズ学会では身体障害認定に関わる制度改正について CHARM 以外の支援団体や医療機関も声をあげており追い風が吹いているように感じた。しかし、CHARM で支援した約半数の移住 HIV 陽性者がスムーズに日本の福祉制度を利用できていない現状と、日本社会全体で積極的に移民の受け入れを行っており、その中には CHARM がアウトリーチできていない HIV 陽性者がいる可能性を鑑みた場合、誰もが安心して治療を継続できるような制度への改正は早急の課題である。

なお、2024 年度に連携した医療機関は、北海道大学病院、釧路労災病院、帯広厚生病院、仙台医療センター、秋田大学医学部附属病院、東埼玉病院、東葛病院、東京慈恵会医科大学附属病院、東京都立駒込病院、国立国際医療研究センター病院、しらかば診療所、ねぎし内科診療所、北里大学病院、信州大学医学部附属病院、長岡赤十字病院、福井県立病院、岐阜大学医学部附属病院、浜松医療センター、名古屋医療センター、京都大学医学部附属病院、日本バプテスト病院、大阪医療センター、大阪市立総合医療センター、堺市立総合医療センター、谷口医院、中村クリニック、兵庫医科大学病院、兵庫県立尼崎総合医療センター、奈良県立医科大学附属病院、島根大学医学部附属病院、広島大学病院、九州医療センター、大分大学医学部附属病院と関西圏に留まらず全国に渡った。2 月には「ブロック拠点病院等ソーシャルワーカー情報交換会」にオンラインで参加し CHARM の活動について、および外国籍 HIV 陽性者の支援体制についてプレゼンテーションを行った。参加者から CHARM がアウトリーチできていない地域の外国籍 HIV 陽性者の現状についてヒアリングをし、医療機関と地域の NPO が連携していく必要性を確認した。支援機関は特定非営利活動法人シェア＝国際保健協力市民の会(東京都)、北陸 HIV 情報センター(石川県)と連携した。他の地域の外国籍 HIV 陽性者についても関西圏の外国籍 HIV 陽性者となるべく同様のサポート体制が取れるよう努めた。

外国籍 HIV 陽性者から寄せられた生活に関する相談 6 件の内容は、HIV を理由に職場を解雇された者の心の支援、マイナ保険証を利用したことで他院にて HIV 治療歴を同行者の前で明らかにされた者の心の支援、転居時の役所での手続きについて等であった。

CHARM では拠点病院への定期通院が開始した後も日本で生活する上での相談を継続して受け付けている。本人が、職場や学校等に HIV 陽性であることを伝えている者はまだまだ少数であり、CHARM は外国籍 HIV 陽性者にとって健康も含めて日本での生活のことを母語で相談できる場所となっていることがわかる。継続相談者の具体的な相談内容は、違う地域へ引っ越す予定なのでその地域に HIV 治療拠点病院があるか教えてほしい、日本に来てから内服薬を変更し副作用が辛い、在留資格を変更したい、仕事を退職することになったがどういふ手続きが必要か、HIV に関連しない体の不調について等であった。今年度は HIV を理由に職場を解雇されたという相談が 2 件あり、プライバシーの守られた相談場所としての機能を今後も引き続き保持していくことの必要と共、外国籍住民の権利擁護について外国籍住民自身だけでなく医療従事者へも情報発信していく必要があると感じた。

月毎の新規相談数と継続(前月までに新規で相談があった者)相談数：

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
新規	3	6	4	10	4	5	6	9	10	8	13	14	92
継続	12	11	14	16	13	16	16	14	16	13	16	16	173

※継続の合計数は延べ人数

3-2) HIV 陽性者の同行/訪問支援「そよかぜ」

活動開始年：2015 年

活動内容：エイズ拠点病院や訪問看護ステーションと共同して独居患者が自立出来るように経過訪問支援などを行なう。介護保険などの公的支援が適応しない支援を提供している。家族が通常行うことを期待されている病院同行、入退院の支援、散歩や買い物等への同行、などである。日常的に必要なとする場面で支援を提供することを長期的に行うことを通して信頼関係を築き、いざとなった時に頼ってもらえる存在となることを目指す。

メンバー：看護師 1 名、ボランティア 1 名で活動している。計 2 名

活動頻度：必要に応じて随時

対面会議：毎月実施

そよかぜは、エイズ拠点病院や訪問看護ステーション等と共同して陽性者の独居者が自立できるように支援を提供している。メンバーは看護師 1 名、とボランティア 1 名である。そよかぜ支援者の活動内容は、独居、高齢化による認知機能低下や病状の悪化にて病院診察を一人で受診することができず、病院受診同行や話し相手が主な活動支援に移行している。

2024 年度は同行の訪問の活動件数は 16 件であった。地域支援との共同に関しては、病院のソーシャルワーカーや訪問ステーション担当看護師、ケアマネージャーと電話にて情報を共有しながら現状を話し合い、個々に合う支援の方法を考えている。独居者の生活状況を共有しながら自宅内での転倒防止対策、夜間排泄、飲酒について、身体機能の低下、認知機能低下の変化等を話し合った。また、中には電話でつながってほしいという希望者もあり、2-3 カ月おきに電話をしている。また、独居者で生存確認を希望される方もおり、現在は LINE/電話によるつながりの件数は 42 件であった。話し相手の内容は、高齢や独居の身近に頼れる人がいない現状から起こる孤立を防ぎ、つながりを継続していくことで、安心へと変えることの大切さを感じている。グループ内の情報の共有は同行支援後に注意事項、情報を共有しながら問題解決に向けた意見交換を行った。2025 年度の訪問目標は引き続き「つながり」をキーワードとして、支援者の個々に合った支援方法を考え、訪問看護ステーションや地域とのつながりも持ちながら、公では出来ない家族的支援活動を行っていききたい。

3-3) HIV 総合相談窓口 SO SO SO (HIV 陽性者のためのメール相談)

活動開始年：2021 年 10 月開始 HIV 総合相談窓口“SO SO SO”

活動内容：HIV 陽性者の方やパートナー、家族などのための無料メール相談

目的：

- 1) HIV で情報を得たい人や相談したい人が、時間に関係なくメールで相談することができ、問題解決に向けた一歩を進める一助とする。
- 2) CHARM で活動している専門家も含めた人々にその能力と才能をボランティアで発揮してもらい相談者のニーズに近い対応をチームで行う。

開催頻度：必要に応じて随時

登録プロボノ：医師、薬剤師、臨床心理士、ソーシャルワーカー、看護師、陽性者の方など

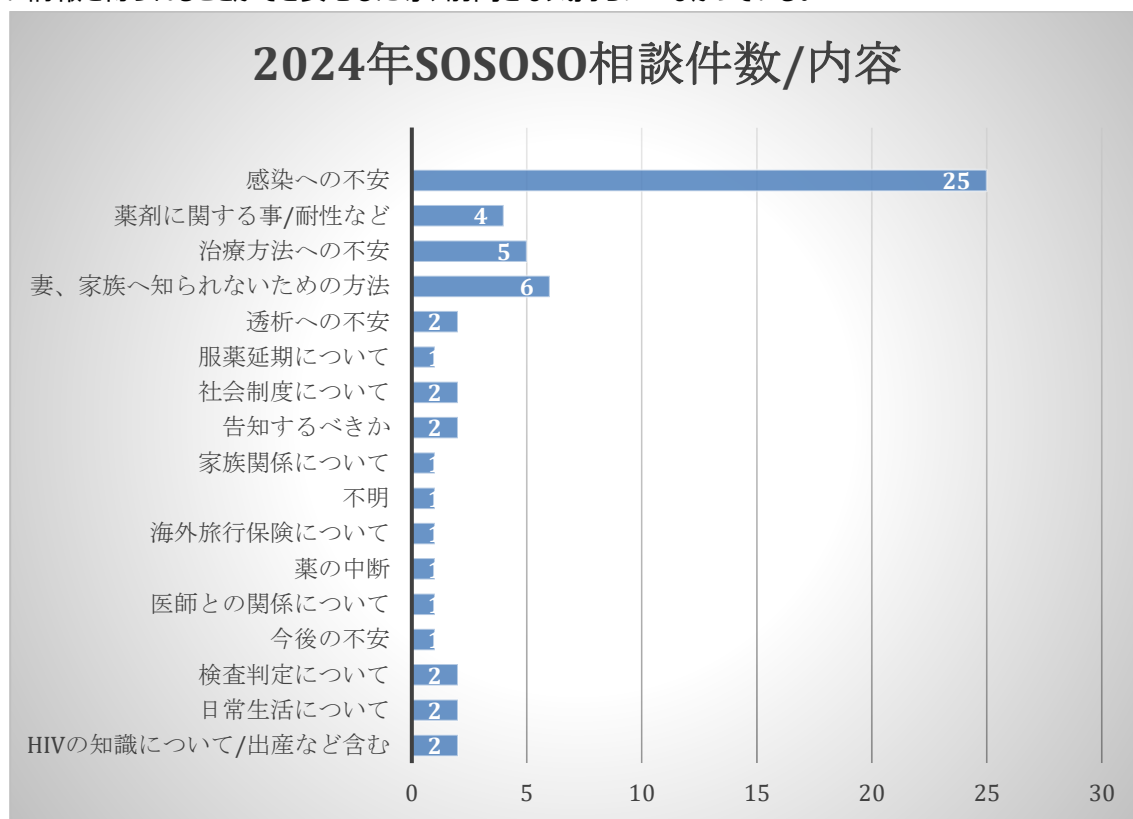
委託元：厚生労働省 HIV 陽性者等の HIV に関する相談、支援一式

総合相談窓口“SO SO SO”に入った相談の件数は、2024 年度は 73 件であり、その内の相談は新規件数 34 件、相談件数は 59 件であった。メールのやり取り回数は多い方で 5 回であった。新規 34 件のうち、5 件は外国語対応に回した。

コーディネーターはメールのやり取りで相談者の気持ちの整理を行い、問題点を明らかにして医療専門者に繋がることができた。専門者の返事は全体の傾向と、経験に基づく返答であり、相談者からは納得ができ安心したと返事が来ている。低迷した気持ちに関しては、気持ちが落ち着くまでメールでのやり取りを行い、相談者が前に進める気持ちを創ることに努めた。

相談内容は、感染不安が多く全体の 42%を占めた。その他は、陽性を家族に知られないための方法が知りたい、主治医との折り合いが悪くなり薬を半年間中断している、妊娠検査時にスクリーニング検査で陽性と出た、障害者手帳の級を上げたいので服薬を止めることは出来るか、社会制度、治療費について、透析への不安、妻に告知するべきか、通院先の治療方法の不安、息子が結婚後陽性結果となり、今後の不安など多岐多様に渡っている。薬中断の相談者の背景は病気を受け入れできない状態で治療が進んでしまっていた。コーディネーターに相談する方向に勧め更生医療の手続きはできたが、まだ診察を受け薬の再開に至っていないためメールを継続している。透析不安の相談は透析経験のある担当者につないだ。社会制度や家族へ知られないための手続きなどはソーシャルワーカーへつなぎ、また通院先の治療不安へは医師へつなぐことができた。相談者は誰にも相談できない状況下

に置かれ、不安の度合いにより個人に精神的影響を与える状態にある。“SO SO SO”相談は専門家の適切で正しい情報を得られることができ安心した等、前向きな気持ちにつながっている。



3-4)エイズ専門相談支援事業 (大阪市)

開始年：2002 年

目的：

- 1) 大阪市内で行なっている HIV 検査後に検査結果が陽性と判明した人にカウンセリングを行い、必要とする情報を提供することで、不安を軽減しエイズ拠点病院の診療につながることを目的とする。
- 2) 大阪市立病院で通院または入院治療を受けている患者の要望に応じてカウンセリングを行う。
- 3) 中央区、北区の保健福祉センターで月 2 回ずつ HIV 検査時に受検者等に HIV や他の性感染症に関する相談の機会を提供する。

登録カウンセラー：臨床心理士 2 名、ソーシャルワーカー 2 名、看護師 1 名 計 5 名

頻度：必要に応じて随時

委託元：大阪市保健所

CHARM では、大阪市からの委託で中央区、北区の 2 保健福祉センターで毎月 4 回ずつ HIV、STD 無料検査時の定例相談に定例専門相談員を派遣している。

2024 年度、保健福祉センターの陽性告知及び定例相談、病院でのカウンセリングの合計件数は 58 件である。エイズ拠点病院のカウンセリング体制が整理されたことに伴い、大阪市派遣カウンセリングに依頼されるケースが減少し 2023 年度 75 件に比べ 2024 年度は減少した。通訳は 2024 年度は中国語 1 名、英語 2 名であった。告知件数は 12 件であった。内、告知に来所しなかった件数が 4 件あった。陽性告知の場面では、20-30 才台は SNS、友人から等の情報を得ている人が多く、告知時は冷静に受け止める若者が多い中、外国人は経済的困難などで健康保険の未納もわかり、まずは健康保険の再加入から説明することもあった。高齢者の感染者は家族への説明、職場の上司にどう伝えるか等不安を隠せず現状を理解できない人もいた。定例相談内容は STD の感染不安が多い中、相談者のほとんどが感染予防をしていない人、予防してほしいことを伝えられない女子が多く、

相談を受ける度に若年層に対する性教育の大切さを実感する。また保健所による陰性者への検査報告時の予防啓発の指導の必要性を感じる。地域施設への研修会は 10 月 16 日医師研修会、2 月 12 日大阪市総合訪問看護研修会を行い、陽性者の現状を理解してもらった。相談員の連絡会議はオンラインでの会議を行った。

会議：オンライン会議 随時

研修会：2 回実施した。

2024 年度大阪市エイズ専門相談

2024 年度	定例相談		病院	告知		合計
	中央	北		中央	北	
4月	2	2	1			5
5月	2	2				4
6月	2	2			1	5
7月	2	2			1	5
8月	2	2		2		6
9月	2	2			1	5
10月	2	2		2		6
11月	2	2				4
12月	2	2				4
1月	1	1		2	2	6
2月	2	2			1	5
3月	1	2				3
合計	22	23	1	6	6	58

告知に関しては、淀川保健センター、Dista はなかった。

3-5) 和歌山県エイズカウンセラー派遣事業

活動開始年：2020 年
目的：和歌山県立医科大学付属病院にて、エイズ患者または HIV 感染者およびその家族に対するカウンセリングを行う。
頻度：月 4 回
委託元：和歌山県

2024 年度は月 4 回、計 48 回の派遣を実施し、対応件数は延べ 8 件だった。2023 年度 24 件より大幅減少。2024 年度は派遣先を保健所やその他の拠点病院に拡大し、引き続き派遣する予定である。

4) グループプログラム

4-1) 女性陽性者交流会

活動開始年：2007 年
目的：女性 HIV 陽性者が、同性の仲間と出会うことで孤立を防ぎ安心して暮らすことに繋がる機会をつくる。
活動内容：年に一度 1 泊 2 日の多文化キャンプを実施し、女性 HIV 陽性者や医療者に出会う機会を作っ

てきた。2020 年度からはオンライン形式の女性交流会を開始し、現在も継続している。
開催頻度：多文化キャンプは年に 1 回、オンライン女性交流会は 2 ヶ月に 1 回（曜日、時間は不定）
委託元：厚生労働省 HIV 陽性者等の HIV に関する相談・支援一式

女性 HIV 陽性者交流会は、女性陽性者同士が出会い、つながるピア(仲間)の場である。

今年度の多文化キャンプは、関西や関東、九州に住む HIV 陽性女性 18 名(うち外国籍 6 名、新規 2 名)、およびその子ども 11 名(乳幼児 2 名、小学生 6 名、中学生 3 名)と、スタッフ 8 名(医師 1 名、薬剤師 2 名、看護師 2 名、支援者 5 名)が参加した。また同プログラムは、京都 YMCA の協力のもと、ボランティアリーダー 4 名が子どもプログラムを担当、京都ワイズメンズクラブは夕食を提供した。二日間のプログラムの中で女性たちは、医療者との個別相談で日々の悩みを解消し、食生活についての勉強会で新たな知識を得た。グループディスカッションでは日頃の疑問や心配事について意見交換を行ったが、特に新規の参加者は、プログラムに参加している女性陽性者が結婚や出産をし、自分らしいライフスタイルを築いて元気に暮らしている姿を目の当たりにし、未来への希望を見出すことができていた。参加した女性たちからもキャンプはエンパワーの場であり、お互いの存在が生きる励みになっているという感想が多かった。

オンライン交流会は、今年度は合計 5 回開催した。参加者は延べ人数 36 名で、そのうち外国籍女性 5 名であった。内容については、MSW による講義「マイナンバーと医療制度について」と拠点病院医師との医療相談会を各 1 回、近況報告とその場で出たトピックに沿ってディスカッション形式に行うものを 3 回実施した。毎回 4～5 人から多いときは 8～9 人の参加者があり、テーマを設けずに話すことも多いが、日々の生活の中で感じたことや悩みなどを共有して他者からのアイデアや情報を得、安心していろいろな話ができる場となった。

実施回数：多文化キャンプ 1 回、オンライン交流会 5 回

参加人数：多文化キャンプ 18 名、子ども 11 名、スタッフ 8 名

オンライン交流会延べ 36 名、スタッフ 1 名



4-2) 薬物依存症からの回復を目指す陽性者のピアグループ SPICA

活動開始年：2012 年

活動内容：陽性者で薬物依存症からの回復を目指す人たちが集まる仲間(ピア)のグループミーティング。HIV、セクシュアリティなど互いに理解し合える要素を共通にもつ仲間が、お互いを支え合うためにつながる場として月 2 回のミーティングがある。

開催頻度：月 2 回 第 2 日曜日、第 4 土曜日 16:00-18:00 に開催。

委託元：厚生労働省 HIV 陽性者等の HIV に関する相談・支援一式

2024 年度は、24 回実施し、延べ 50 人が参加した。今年度は継続して参加しているメンバーが相次いで就職したが、仕事とのバランスを取りながらグループミーティングに続けて参加をすることができ、社会復帰へのサポートもグループ内で行うことができた。年度末には新しいメンバーも増え、活気あるミーティングをすることもできた。今後もグループのニーズに合ったあり方を継続していきたいと考えている。

4-3) Japan Silver Survivors(日本で暮らす外国籍高齢者の会)

活動開始年：2023 年

活動目的：日本人の配偶者や子どものいない外国籍高齢者が安心して日本で老後を迎えられるよう同じ課題を抱える人たちの交流の機会を作る。

活動内容：日本で老後を迎えるために必要と思われる事柄について英語で勉強会を実施する。

開催頻度：月に 1 回 2 時間

2 人の外国籍高齢者が終の住処としている日本で老いることに伴う不安を解消するためグループミーティングの開催を希望し準備を始めた。居住地が離れているためミーティングはオンラインで開催した。少し若い外国籍 HIV 陽性者を誘ったが関心事が異なり参加には至らなかった。一方、高齢外国人の交流スペースがあることがわかり HIV 陽性者のみの外国人の会を継続することはできないと 4 回のミーティングを経て判断し、中止を決定した。

4-4) つむぐ

活動開始：2023 年 6 月開始

目的：

1. 語ることがエンパワーメント効果となり、老化する現状を受け入れることができる。
2. 他者とのつながりを持ち、一人でないことを感じることができる。
3. 不安から安心へ変化することができる。

地域との連携：訪問看護師やケアマネージャーとの連携し、体調や日々の変化なども共有し QOL 向上を図る
メンバー：看護師 1 名、ボランティア 1 名。

活動頻度：2 カ月に 1 回

会議開催頻度：開催後次月 第 4 火曜日 13:00-14:00

問題点はその都度解決する。

2023 年 6 月より開始し 2024 年で 2 年を迎えた。

2024 年度はクリスマス会、桜をめぐる会などを実施し、四季折々の楽しみも共有した。「つむぐ」は情報を得る機会や、個々の近況報告や、身体的精神的に今後どうなっていくのか、緊急時に誰に連絡をするのか、終焉後のことなどを含め、一人で考えずに共に語り合う場となっている。それぞれの不安をお互いに受け止め、自分が一人ではないことを実感し、個人の Q O L の向上にもつなげた。今年度は「つむぐ」の活動見学の希望があり、ケアマネージャー 1 名が 12 月に参加した。軽度認知機能低下の陽性者が「つむぐ」に参加するために前日から何を話そうかと楽しみに日々を過ごされている様子があり、参加して経験したかったということであった。今後も地域との連携を共有して個々の QOL の向上を図りたい。

5) 多言語支援

5-1) HIVと結核の通訳派遣事業

活動開始：2002 年

活動目的：日本語以外の言語を背景とする人が、医療機関、保健所などで自分が理解できる言語で安心して診察を受けるために医療通訳を実施する。

活動内容：

1) HIV 通訳

内容：HIV 陽性者の診療時、行政窓口やその他の手続きの際の通訳（同行、電話、遠隔映像）

委託元：厚生労働省

2) HIV 検査時通訳

内容：自治体、NGO 等が行う HIV 検査、結果返しの際の通訳(対面、遠隔映像)

委託元：京都市、MASH 大阪、スマートらいふネット、大阪市、大阪府、杏林大学

3) 結核通訳

内容：結核感染者の受診、接触者検診、DOTS 指導、濃厚接触者等に関する聞き取りの際の保健師と患者の間の通訳(対面、遠隔映像)、資料翻訳

委託元：大阪府、堺市、八尾市、寝屋川市、枚方市、吹田市、高槻市、京都市

4) 結核患者のため結核治療専門医療機関での医療通訳システムを構築

内容：医療通訳者を派遣し、通訳者が介入したことによる効果について医療者の評価を得る。

助成元：大阪コミュニティ財団

5) 契約以外の通訳

内容：医療機関での結核、脳内寄生虫除去、腎生検、交通事故

依頼元：大阪市立総合医療センター、患者等、北陸 HIV 情報センター

財源：寄付、患者自己負担、保険会社

6) 医療通訳研修

内容：登録通訳の知識更新のため、また新規の通訳者採用前の基礎知識習得のために実施

委託元：杏林大学

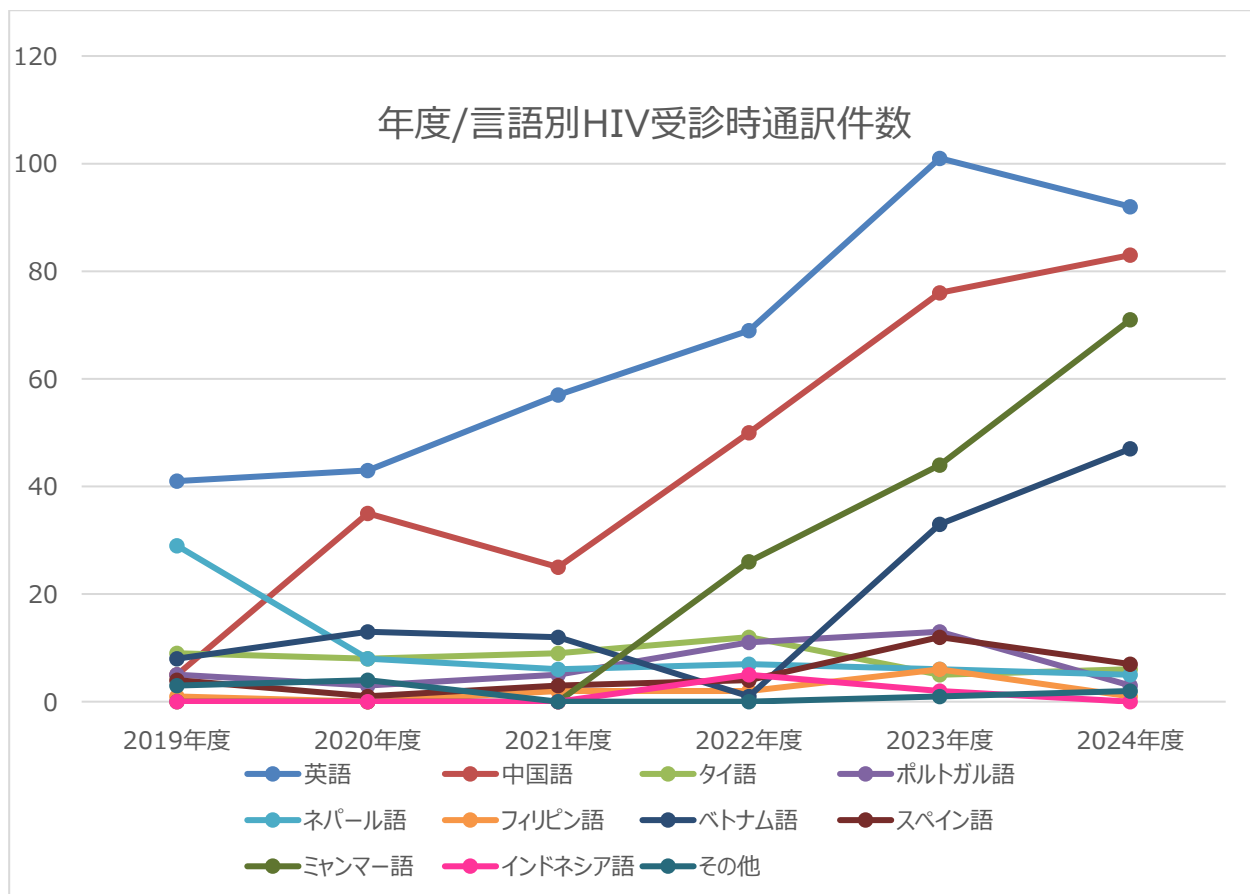
登録通訳者：80 名 (17 言語)

5-1-1) HIV 医療通訳事業

2024 年度の HIV 通訳実施件数は 317 件(2023 年度 299 件、2022 年度 187 件、2021 年度 119 件)、医療通訳形態は同席通訳 265 件、遠隔映像通訳 37 件、電話通訳は 15 件であった。

実施した通訳を言語別にみると英語 90 件(28%)、中国語 83 件(26%)、ミャンマー語 71 件(22%)など 10 言語で 24 の国や地域の出身者に対応した。近年来日者数が増加しているベトナム語、ミャンマー語が急激に増加しているのに反して、2019 年度以降初めて英語が、その他ポルトガル語、フィリピン語、ネパール語、スペイン語、インドネシア語も減少に転じた。

2024 年度に新規依頼を受けたのは 36 人 115 件、昨年度以前からの継続は 41 人 202 件であった。新規のケースは海外からの移住 HIV 陽性者への通訳が 17 件、医療機関からの依頼が 15 件、HIV 検査の陽性告知通訳後に本人が医療機関での初診受診時への通訳を希望したケースが 3 件などであった。



HIV の治療を行う感染症科以外では眼科、整形外科、泌尿器科、婦人科での通訳のほか、結核感染併発、悪性リンパ腫罹患等重篤なケースもあった。

医療機関別に見てみると、37 名に対応した大阪医療センターでの通訳件数が 184 回、大阪市立総合医療センターでは 14 名に 49 回、都立駒込病院(遠隔/映像通訳)は 7 名に 35 回の通訳を実施した。ねぎし内科診療所、帯広厚生病院は遠隔映像通訳、仙台医療センター、島根大学医学部付属病院、北海道大学医学部付属病院は電話通訳を実施した。合計 19 医療機関 4 行政機関で通訳を実施した。2023 年度の 25 医療機関 10 行政機関から減少した。

利用者が受診日を変更したり、都合で遅れる場合の連絡や、持参すべき書類などの確認を行い、受診をスムーズに行えるように設置した利用者向け LINE 公式アカウントには 31 名が登録している。また、事務スタッフ間で月 1 回ケース会議を持ち、問題の発生を予防し、よりきめ細かく対応することに努めた。

HIV 陽性者の通訳依頼増加を受け、新規の対応を中心に受ける体制に変更することを 1 年かけて討議し、新しい HIV 医療通訳システムを構築した。このシステムでは日本語理解が充分でない HIV 陽性者に 1 年間医療通訳を自己負担なしで提供するが、1 年後からは原則通訳は行わない。その 1 年の間に受診の流れ、医療機関の設備、検査などについて通訳者と一緒に学び、体調が落ち着き、3 ヶ月ごとの定期受診に病院での受診に慣れることを目指す。1 年が過ぎても、病状悪化、保険、生活環境の変化などで制度の変更が必要な場合は通訳を実施する。利用者には詳細な説明文を多言語化し配布した。約 20 名が次回の通訳をもって休止となる。2024 年度は予算 200 回に対して、1.5 倍以上の 317 件を実施した。通訳費用、交通費を補填するため、冬季募金を募った。

1.医療通訳実施回数：317 回

2.対応言語：英語、中国語、ベトナム語、フィリピン語、タイ語、ネパール語、ポルトガル語、スペイン語、ミャンマー語、ロシア語

5-1-2) HIV 検査通訳事業

2024 年度 HIV 検査時医療通訳実績(件数)

	検査/結果返し依頼元	英語	中国語	ベトナム語	インドネシア語	ポルトガル語
HIV 検査	京都市保健所(45 派遣)	125	0	0	0	0
	MASH 大阪(12 待機/2 派遣)	4	0	0	0	0
	スマートらいふネット(26 派遣)	1	14	12	0	0
	杏林大学イベント検査(16 待機)	2	3	3	1	1
	杏林大学保健所検査(15 待機)	3	2	1	0	0
	HIV 検査関連通訳実施合計	135	19	16	1	1

(合計 172 件)

① 京都市平日検査

2024 年度は京都工場保健会へ英語通訳者を派遣した。2024 年度より夜間検査だけでなく昼間の検査にも通訳派遣が実施されることとなり 45 回派遣し、検査では 71 名、結果返却では 54 名の通訳を行った。枠がほぼ倍に増えたにもかかわらず予約を受ける際、近い日程の検査の予約枠がうまっているため、大阪の検査会場や有償の医療機関を紹介するケースも生じた。

9 月には HIV 検査キットの不足により即日検査を通常検査に変更する予定になり、約 2 週間予約の受付を休止したが、その後キットの安定入荷が確定し、即日検査で実施できる見込みが立ち予約受付を継続した。

② dista でピタッとちえつく

MASH 大阪が隔月に実施しているコミュニティーセンターdistaでのゲイ・バイセクシュアル向けの HIV 検査において英語、中国語の通訳者が zoom を使った遠隔映像通訳を行うためスタンバイしたが、通訳を必要とする受検者が少なく、英語通訳を 1 回実施、中国語通訳は利用者がなかった。検査後の結果返却時には同席で英語を 2 回 3 名に対して実施した。検査は曜日を固定せず土曜日または日曜日に実施したが受検者数増加に至らなかったことから、今後は広報などさらなる工夫が必要と考えられる。

③ chotCAST HIV 検査会場

2024 年度は基本第一日曜日の検査時に中国語、ベトナム語の通訳者を派遣した。検査時通訳実施数は中国語 13 件、ベトナム語 10 件、合計 23 件であった。このほか、陽性告知時の通訳をベトナム語 2 件、中国語、英語各 1 件、合計 4 件実施した。

こちらの検査会場の通訳付き検査も 10 月は即日検査キットの入手困難ということで休止となった。

④ 杏林大学 HIV 検査

厚生労働省の研究事業¹⁾の一環で研究班代表の在職する杏林大学と契約を結び、HIV/STI 検査イベントや、自治体の HIV 検査時の遠隔映像通訳を実施した。東京都、埼玉県、大阪府、沖縄県の医療機関や保健所など 7 会場の予約要、不要なイベント検査時に延べ 16 人の通訳者が待機、中国語、ベトナム語各 3 件、英語 2 件、インドネシア語、ポルトガル語各 1 件、合計 10 件の通訳を実施した。保健所からの検査時、または結果返却時の通訳依頼は、新宿区保健所、白井保健所、広島県西部東保健所、八王子保健所など 4 自治体から依頼が入り 6 件の通訳を実施した。検査を予約しても来所しない受検者がおり、このような数となった。

⑤ 大阪市保健所が実施している HIV 検査実施後の陽性告知時の通訳派遣は中国語で 1 件実施、その後の受診時の通訳を厚労省の事業で継続して行っている。

⑥ 大阪府保健所から受託事業として、医療機関で HIV 陽性が判明した際の告知時に医療通訳を期間限定で派遣することになっていたが、こちらも利用者はなかった。

5-1-3) 結核通訳事業

2024 年度の結核通訳は 8 つの自治体と契約をしていたが、そのうち大阪府、堺市、寝屋川市、八尾市から依頼を受け計 41 件実施した。これまで実施件数の中で多かった大阪市の契約が取れなかったため全体数は減少したが、2023 年度の大阪市を除いた 31 件より 10 件の増加となった。また 2023 年度は体調不良等で直前のキャンセルが 8 件であったが、2024 年度は正式依頼を受けた 41 件すべて実施することができた。

入院中で排菌の可能性が高いと考えられる 4 ケースについては、院内や保健所内での遠隔映像通訳となった。

結核治療のために入院中の患者に対して、結核治療の理解の確認と今後の保健師の支援計画についての説明、患者や家族への聞き取り調査や接触者検診、自宅、職場での DOTS 指導、帰国に向けた聞き取りなどの通訳を行なった。

大阪府内結核通訳実施先別言語別実績(件数)

依頼先	通訳実施先	英語	中国語	フィリピン語	ベトナム語	ミャンマー語	インドネシア語	ネパール語	ポルトガル語	タイ語	台湾語
大阪府	近畿中央呼吸器センター	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0
	大阪はびきの医療センター	0	0	0	1	0	5	0	0	0	0
	りんくう総合医療センター	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
	大阪公立大学病院	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	藤井寺保健所/池田保健所(遠隔映像/兵庫県中央病院)/泉佐野保健所(遠隔映像/沖縄県内医療機関)	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1
	患者職場	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
	患者自宅	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
堺市	近畿中央呼吸器センター	3	0	3	1	2	0	0	1	0	0
	堺市保健所→近畿中央呼吸器センター	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	大阪はびきの医療センター	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	清恵会病院	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	患者宅	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
寝屋川市	大阪複十字病院	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
八尾市	八尾市保健所(同席/遠隔映像)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	大阪はびきの医療センター	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	合計	8	1	4	2	9	11	1	1	1	3

(合計 41 件)

5-1-4) 契約以外の感染症の通訳

2024 年度は、大阪市立総合医療センターで多言語支援として、結核感染者、脳内寄生虫除去など 2 名にミャンマー語、ネパール語での通訳支援をおこなった。同じく大阪市立総合医療センターからの依頼で交通事故に遭ったフィリピン人ファミリーのためフィリピン語通訳や翻訳など 33 回対応した。費用は交通事故の保険会社が負担。その他腎生検を受けるミャンマー人の依頼で 2 回の通訳を、北陸 HIV 情報センターの依頼で英語の出張通訳を 1 回実施した。

5-1-5) 医療通訳者研修

HIV／結核通訳研修の通訳養成講座を開催し、zoom を使った 4 回の通訳研修を行なった。2024 年度の医療通訳研修も、2019 年度から続いて杏林大学北島勉氏を代表とする研究事業¹⁾の一環として実施した。

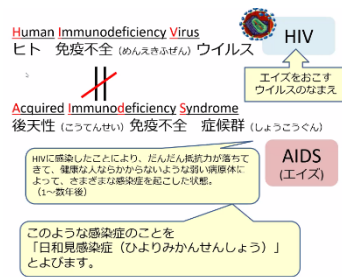
研修日程： 1) 9 月 23 日 9:00-12:30 2) 10 月 19 日 9:00-13:00
 3) 11 月 4 日 9:00-13:00 4) 12 月 7 日 9:00-13:00

研修全体の目的を多様な言語に対応できる人材を養成するために日本語以外の言語を母語とする人々が参加しやすいプログラムとし、実務的な目的を医療用語集の作成と、継続的な単語の追加など更新の習慣化とした。提出された医療用語集は充実した内容のものが多く、用語集がロールプレイの助けになったことは、作成しなかった参加者と作成した参加者の評価の差という形であられた。研修終了後、受講者の中から 5 名の通訳登録が完了し、今後も登録作業を進めていく。

言語別参加者： 英語 5 人、ベトナム語 5 人、英語/ベトナム語 2 人、インドネシア語 2 人、タガログ語、ネパール語、中国語、韓国朝鮮語、ミャンマー語、ポルトガル語、シンハラ語/英語各 1 人、延べ 68 人

研修内容：

- 1.研修の目的と用語集作成
- 2.HIV の基礎知識：白野倫徳(大阪市立総合医療センター)
- 3.結核の基礎知識：高柳喜代子(結核研究会)
- 4.HIV 検査の流れ：古川香奈江(大阪市保健所)
- 5.用語集(グループワーク)
- 6.通訳練習とグループ(クイックレスポンス、リプロダクション、ノートテイキング)：宮首弘子、
- 7.通訳者交流
- 8.HIV に関係する保健医療制度：瀧浦その子(大阪市立総合医療センター)
- 9.結核に関係する保健医療制度：仲村祐子(大阪府健康医療部保健医療室感染症対策課)
- 10.外国籍住民が利用できる保健医療制度：青木理恵子 (CHARM)
- 11.理解を確認するためのテスト及び、回答内容から不足している知識のフォロー
- 12.医療通訳の倫理と役割
- 13.遠隔通訳：沢田貴志
- 14.HIV 検査時、結果返し(陽性告知)場面での受検者と保健師の間の通訳
(ロールプレイ、ベトナム語/ミャンマー語/インドネシア語)
- 15.通訳困難場面での対処方法



脚注 ¹⁾ 厚生労働省在留外国人に対する HIV 検査や医療提供の体制構築に資する研究班・研究事業、研究代表杏林大学総合政策学部教授北島勉

5-2) 翻訳

病院や行政機関などから HIV や結核などに関連する資料の翻訳などの依頼があり対応した。実施した翻訳内容は下記の通りである。

依頼元	内容	言語
chotCAST	2024 年度チラシ (翻訳のネイティブチェック)	英語、中国語、ベトナム語
移住連	オンライン講座の資料翻訳 (紹介、依頼のみ)	英語
通訳事業 (厚労省予算)	相談者への対応	中国語(繁体字)
通訳事業 (厚労省予算)	同意書の追加翻訳	ベトナム語
行政書士事務所	同意書の翻訳	タガログ語
chotCAST	即日検査中止お知らせ	中国語、ベトナム語
相談事業 (厚労省予算)	相談者への対応	中国語(繁体字)
自治体 (大阪府)	結核患者向けホームページ、検 診案内等	ミャンマー語
自治体 (大阪府)	結核患者家族向け資料、退 院後服薬、保健所の役割等	英語、タガログ語、インドネシア語、ベトナム語
自治体 (大阪市)	結核診療のしおり	英語、中国語、韓国語、タガログ語、ベトナム語、イ ンドネシア語、ネパール語、ミャンマー語

6) 関西学院大学留学生支援事業

活動開始年：2023 年

活動目的：留学生が日本で健康に勉学に取り組むため、学外での支援の一助となる。

活動内容：1) 大学保健館における学校医との面談時通訳 2) 病院同行/通訳 3) 授業に出来ない学生の
安否確認 4) 障害を持つ学生の役所への手続き同行/通訳

開催頻度：必要に応じて随時

委託元：関西学院大学

2024 年度は、延べ 78 件の通訳・同行支援を実施した。診療科は精神科/心療内科、内科、整形外科、婦人科、眼科、皮膚科、肛門科、脳外科、ペインクリニック、放射線科であった。2024 年度は授業に出来ない学生の安否確認の依頼も初めてあり、2 人体制で自宅を訪問した。今年度は大学側からの要請に応じ正規留学生についても対応した。事業開始時から月 1 回、大学の留学生担当事務室、保健館、カウンセラーとミーティングを続けており、学内外で連携しながら今後も留学生が健康に日本で過ごせるよう支援をしていく。

7) ネットワーク

7-1) 2023 年度に関西・北陸 10 団体による日本エイズ会議期間中の市民フォーラム開催後、そのつながりを生かして MASH 大阪と共同プログラムを実施した。

日時：2024 年 10 月 26 日(土)14:00-16:30

テーマ：「Beyond a century ゲイと AIDS -当事者が語る 1 世紀(100 年)-」

HIV カフェに参加している長谷さんが 94 歳のゲイとして自分の一生を振り返りお話をいただいた。

講演の後、長谷さんは翌月 11 月に他界された。

7-2) 2023 年度に続いて大阪エイズウィークスに参加し、CHARM が行っているブッククラブ(読書会)に参加を広く呼びかけた。

日時：2024 年 12 月 14 日 14:00-16:00

テーマ：「砂時計のなかで-薬害エイズ・HIV 訴訟の全記録」島本慈子 1997 年

7-3) クレオ大阪中央が主催した「応援する、応援される関係性の作り方～出会う、つながる、広がる交流会～」で CCJA 大賞受賞の報告と分野を超えたネットワークの重要性を話し、参加者から共感をえた。
この集会で「森を創る」プロジェクトを提起したことが 2025 年度の研修プログラムに発展した。

7-4) 関西 HIV 臨床カンファレンス NGO/NPO 交流会に参加し、市民団体同士の横のつながり、医療者や行政機関と NGO が 15 年を超える連帯の中で信頼関係が築き上げられていることを実感した。関西は医療者が市民団体に門戸を開き協力を求めている稀有な地域である。

8) 広報

8-1) 10 言語ホームページ、SNS での情報発信

ホームページで継続的に実施予定のイベントや関西圏内や全国の外国語対応する検査情報などの発信を行った。2024 年度のホームページの閲覧数の年間平均は 9,900/月だった(2023 年度 13,900/月)。

2024 年度に予定していた多言語コンテンツの改訂ができず、2025 年度に実施する予定になった。その際、写真、イラストなどを使用して、閲覧者がわかりやすいものに工夫していきたい。

その他、ホームページで情報提供している内容が行き届くように Facebook や X などの SNS を活用した。

8-2) ホームページを通じた相談

2024 年度は CHARM のホームページの問い合わせフォームを利用した問い合わせ件数は 96 件であった(2023 年度 123 件)。HIV 陽性者からの問い合わせは 71 件で、全体の 74%を占めた。

問い合わせの内容は、「日本における医療制度・HIV 診療・医療機関情報」59 件、「(海外から)HIV 陽性者の日本での生活と仕事について」9 件だった。その他に、検査情報に関する情報 4 件、海外 HIV ネットワーク情報 3 件、感染症不安 2 件、ボランティア参加の希望 3 件、事務局対応やその他 16 件だった。

アクセス元は国内からが 47 件、海外からが 44 件、場所不明が 5 件であったが、HIV 陽性者からの問い合わせのアクセス元は、海外から 42 件、日本国内 26 件、不明 3 件であった。

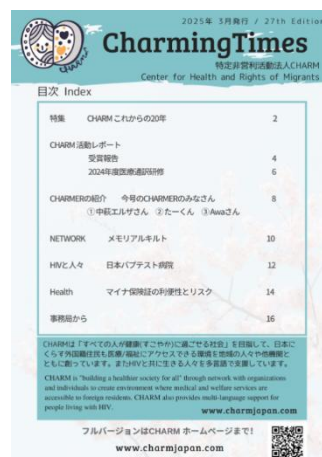
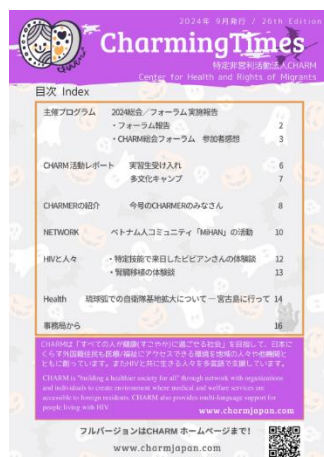
HIV 陽性者からの相談の際の使用言語は 69 件が外国語であった。日本語は 2 件にとどまり、日本語による HIV 陽性者のメール相談である「HIV 陽性者総合相談窓口 SO SO SO」とすみ分けができていることが明らかである。

外国語の内訳は、英語が 40 件、中国語 8 件、外国人からの日本語の相談 6 件、ポルトガル語 6 件、支援団体・医療機関が代わりに日本語で連絡してきた相談が 5 件、インドネシア語 4 件であった。

2024 年度の外国人 HIV 陽性者からの問い合わせは、2023 年度と比べて、相談内容、使用言語、アクセス元(海外か国内か)のそれぞれの比率は大きな変化がなかった。2025 年度は引き続き、来日前に海外から情報収集する外国人 HIV 陽性者に提供する情報を充実していく予定である。

8-3) CHARM からの情報発信

CHARM の機関紙である「Charming Times」の発行を年 2 回行った(26 号、27 号)。団体の機関紙は、一般に公開し、誰でも、どんな端末からでも閲覧しやすいように HP に文章、写真、イラストなどを使い、読みやすいように工夫した。一方、PDF 版もホームページからダウンロードできるようにした。紙媒体を希望する方やインターネットにアクセスがむずかしい方に配布できるように印刷物も作成した。



CHARM に関わるすべての人を「CHARMER」と呼び、事業やイベントの案内を「charmer ML」として 2024 年度も月 1 回の配信を行った。毎月配信されるニュースを受け取り、その時に動いている活動について情報を得ることができる。配信を受け取る CHARMER は、CHARM 会員、サポーター(賛助員)、活動メンバー、スタッフ、理事などである。

9) 実習・研修受け入れ

日時	主催機関・対象者	実施内容	参加者数
2024 年 7 月 29 日～ 8 月 2 日	大手前大学 国際看護学科	夏季実習 地域支援を学ぶ 「検査前資材の作製を通して市民団体の外国人支援を学ぶ」 目的：健康支援、物的資源を理解してそこで求められる看護の役割について考え健康支援と看護を実施するグローバル人材として、看護師として対象との関りを考え、学ぶことができる。	6 名
2024 年 10 月 16 日	大阪医療センター	HIV 感染症実施研修 NPO/NGO 施設訪問と講義	3 名
2024 年 9 月 7 日 ～2025 年 6 月	アメリカ セネガル	マイノリティの健康課題に NGO がどの様に対応しているのかを中心に研修する。	1 名
2025 年 2 月 12 日	大阪市総合医療センター	訪問看護師への研修「外国籍 HIV 陽性者支援」「高齢者に寄り添う」	3 名

10) 理事会

理事長 松浦基夫
副理事長 武田丈
理事 エレーラ・ルルデス・ロザリオ、川奈奈央子、白野倫徳、福村和美、中萩エルザ
監事 三保俊幸

第 1 回理事会 CHARM 事務局及びオンライン

日時：2024 年 7 月 13 日(土)10:00-12:00am

参加：理事 7 名、委任出席 監事 1 名

- 議事： 1) 事務局長手当を新設し今年度から支給する 承認
2) 拡大理事会を 2024 年 10 月と 2025 年 1 月に開催する。参加予定者は理事、監事、2025 年度から新監事、事務局職員とする。 承認
3) CHARM のこれからの活動方針を保健医療分野に限定せず社会の意識変革への働きかけにも取り組む。事業の共同開催など協力できる団体と協力する。
4) 保健医療分野であらたに事業化できる可能性を検討する。
5) 海外出身 HIV 陽性者が来日後安心して医療を受け続けることを実現するため複数の方法で働きかける。エイズ学会、薬害エイズ原告団厚労省交渉等。
6) 委託事業で行っている HIV 通訳事業が予算内で収まらないため、2024 年度は HIV 通訳事業のための冬季募金を行う。目標は 100 万円 承認

第 2 回理事会 関学梅田キャンパス及びオンライン

日時：2024 年 10 月 14 日(祝)13:00-15:00

参加：理事 7 名、監事 1 名、職員 8 名、会員 1 名(次年度監事)、インターン 1 名

議事：1) CHARM 事業展開の共有 統計、財政

2) CHARM の存在意義

「すべての人がすこやかに暮らすことができる社会」を目指す CHARM の役割について少人数で協議を行う。

第 3 回理事会 在日大韓キリスト教大阪北部教会及びオンライン

日時：2025 年 1 月 25 日 12:00-15:00

参加：理事 5 人、職員 7 名、会員 1 名(次年度監事)

議事：1) CHARM は社会に向けた働きかけにも力を入れる。

2) これまで行ってきた支援活動を生かした事業展開を検討する。

3) 新たな方向への働きかけを行うために、また次世代への引継ぎを行うために 2025 年度中に新たな人材を 1 人雇用する。

4) 会を代表する理事長を二人体制とし、医療と社会の各方面の 2 人の合議で進める。

第 4 回理事会 オンライン

日時：2025 年 3 月 31 日 19:00-20:30

参加：理事 6 人、会員 1 名(次年度監事) 委任出席 理事 2 人、監事 1 名

議事：1) 2025 年度事業計画案 承認

・日本 WHO 協会の助成金に申請する

・HIV 陽性者支援としての医療通訳は件数が増加しているため関東地方からの依頼について「ぷれいす東京」が担うことの協議を行い合意した。

・CHARM の医療通訳サービス利用は原則 1 年とし、新規の要望に対応する。

2) 2025 年度予算案 承認

認定 NPO 法人維持に必要な寄付者 100 名は 3 年継続して維持できている。

3) 認定 NPO 法人申請 7 月に申請し秋に申請許可が得られる見込み。

4) 理事長を 2 人体制とする。定款変更が必要となるため総会に提案する。承認

5) 監事の交代 2025 年度から磯邊和也さんが三保俊幸さんと交代して任に当たる。

承認

11) 会員総会

日時：2024 年 6 月 1 日(土) 第一部 14:00-14:30 第二部 15:00-16:30

参加形態：第一部は対面参加、第二部は対面とオンライン

会場：在日大韓基督教会大阪北部教会

第一部：総会

正会員 42 名のうち 17 名出席 委任状 20 名 合計 37 名 正会員過半数をもって総会成立

議事：第 1 号議案 2023 年度事業報告の件、第 2 号議案 2023 年度決算報告の件、第 3 号議案

2024 年度事業計画および活動予算案の件、第 4 号議案 理事および監事の重任の件、の全てが全員異議なくこれを承認し、可決された。最後に第 4 号議案として議事録署名人 2 名(瀧浦その子、庵原典子)選任された。

第二部：フォーラム「すべての陽性者が必要な治療を受けられるために」

対面参加者：38名、オンライン参加者：18名、合計57名

すべての HIV 陽性者が途切れることなく治療を続けるためにはどうしたら良いのか？ 私たちが直面している現状を、医療費助成制度が成立したときを知る葉害エイズ関係者の立場から、医療現場で HIV 陽性者を診療する医療者の立場から、そして制度改革を検討するエイズ学会理事の立場から、以下の3人の方から意見を伺い、今後私たちが進むべき方向について話し合った。

登壇者

若生治友さん(ネットワーク医療と人権 理事長)

白野 倫徳さん(大阪市立総合医療センター 感染症内科部長、CHARM 理事)

岡本 学さん(大阪医療センター ソーシャルワーカー、日本エイズ学会理事)

司会者

松浦 基夫さん(CHARM 理事長)



12) 事務局

青木理恵子 (事務局長、理事会、渉外)

庵原典子 (通訳派遣、通訳研修)

ブラーボンキワラシ (広報、外国語によるエイズ電話相談)

オンバダ香織 (女性交流会)

前田圭子 (総務、会員)

宮本珠美 (会計、総務)

三田洋子 (エイズ専門相談、そよかぜ、HIV 総合相談窓口 SO SO SO、つむぐ、医療従事者実習受け入れ)

竹野翠 (交換留学生医療・生活支援、外国人陽性者支援、JSS)

13) 会員

会員数 136 名 (前年比 -5 名)

〈内訳〉

サポーター (賛助 A) 52 名

サポーター (賛助 B) 42 名

法人・団体サポーター 3(16 口)

正会員 39 名

14) 寄付者名一覧(敬称略)

○ 一般寄付 個人

青木理恵子、秋間桂子、荒巻富美、安間てう子、岩元美和子、逢坂隆子、尾崎正明、
織田幸子、川江友二、来住知美、金香百合、木村雄二、児玉和子、白野倫徳、関祥子、
田守敏樹、張善花、豊島裕子、中路綾夏、成田康子、新倉久乃、松浦洋栄、宮本愛梨沙、
山口和子、山口樹子、山本いづみ、米本キャサリン、Yasmin Poole
匿名 7 名

○ 一般寄付 団体

SHARE = 国際保健協力の会、
二華会
日本基督教団京都上賀茂教会
日本基督教団大正めぐみ教会

○ 冬季支援寄付 個人

青木理恵子、今村葉子、岩元美和子、宇野健司、大久保絹、太田知子、奥野有佳、
小田美乃里、小野康子、神谷安恒、来住知美、児玉和子、小林直子、高橋茜、武田丈、
田島千里、増田智子、松野周治、宮本久子、三輪敦子、武舎宏幸、森本あんり、吉川直美、
Lew King Foong、リンパラヤ スプラーニー、匿名 3 名

○ 冬季支援寄付 団体

一般社団法人ぶろっさむ
どじょこの会
日本基督教団池田五月山教会
日本基督教団大正めぐみ教会